

# 令和4年度第1回庄原市初任者研修会

令和4年5月11日(水) 庄原市総合体育館

「庄原市における教育課題を踏まえ、新任教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭4名、中学校教諭5名、養護教諭3名、主事1名】

## 【講話】「教職員としての在り方について」

庄原市教育委員会 教育部長 片山 祐子

- 教職員としての基本姿勢を大切にすることについて、講話を行った。
- 教育の力が、ふるさと庄原を支え動かす役割を担っている。
  - 高い倫理性と人格性、地域からの信頼が求められる。教職員の心得として、「守る」(法令・社会規範)・「高める」(自己研鑽)・「応える」(子供・保護者・地域からの期待)の3点に努めることが大切である。

- (参加者の振り返りより)
- 庄原を愛する子供の育成のために力を尽くしたい。
  - 児童生徒と直接関わっていく立場として、しっかり自覚をもち、絶えず向上していけるよう頑張りたい。

## 【講話】「児童・生徒と向き合う」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課長 東 直美

- 教職員に期待される役割と児童生徒への対応について、講話を行った。
- 求められる教職員像として、普遍的な事項(教育的愛情と使命感など)と新たな「教育県ひろしま」の創造に向けて特に求められる事項(授業力、挑戦する意欲など)がある。
  - 自分が何気なく言った一言が、子供に影響を与えることがある。自分の信念は何かを問い、自分の言葉が子供の心に届いているか考えることが大切である。

- (参加者の振り返りより)
- 何事も「児童生徒と一緒に」ができる先生になりたい。
  - 「教育的愛情」とは、独りよがりなものではなく、常に生徒の声に耳を傾け、接していくものだと考えた。
  - 寄り添い、共感しつつも、指導をしっかりと行っていく。



## 【講話・演習】「児童生徒、保護者への適切な対応」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 福田 和宏

- 生徒指導の目的と児童生徒、保護者への対応について、事例を用いながら講話・演習を行った。
- 生徒指導では、自己指導能力を育成することが大切である。自己指導能力を育成するためには、「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」という生徒指導の三機能を生かした授業を行う。
  - 児童生徒や保護者へ対応する際は、教育的愛情と誠意をもって、早期に対応する。一人で問題を抱え込まず、管理職や同僚へ報告・連絡・相談を行い、複数対応で誠意をもって取り組む。

- (参加者の振り返りより)
- 事例演習で取り上げられた事案は、実際に起こりうることだと思った。校長先生や他の先生へ報告し、連携して対応していきたい。
  - 言い合いや些細なケンカでも、そこからいじめに発展する可能性も考え、「感度」を高めたい。



## 【講話・演習】「接遇マナー」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 藤井 遥

- 接遇マナーについて、演習を行った。
- 接遇は「思いやり」をもって相手に接することである。
  - 自分の言動は、いつも子供のモデルとなっていることを意識し、相手の立場に立った対応をすることが大切である。



- (参加者の振り返りより)
- 接遇は学校の信用をつくるものだと考える。相手の気持ちになり、明るい接遇を心掛ける。
  - 接遇マナーの五原則を意識し、明日から実践したい。